

種名 ウミネコ (ハマネコ、ネコドリ)



海岸や、河口のところにすんでいて、魚をつかまえて食べます。ミャーオと、ネコのような声で鳴きます。新潟県内には、粟島と柏尾海岸に、集団で巣を作っている場所があります。冬に、河口でよく見られます。冬に渡ってくる種類ですが、8月頃からも、少ないですが見つかることがあります。冬の、関川の河口で見られる、代表的な鳥です。

種名 オオヨシキリ (キョキョシ、ケケス)



スズメよりやや大きく、大きな声でギョギョシ、ギョギョシと鳴きながら、空に向かって飛びます。夏に渡ってきて、川岸のヨシ原にすんでいます。関川の全地域で見られ、ヨシ原が発達しているところでは、たくさん見られます。関川で、ヨシ原のあるところには、たいていオオヨシキリが見られます。

種名 そのほかカモメ類 (カゴメ)



ウミネコのほかに、ユリカモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、カモメが見られます。ユリカモメは、ウミネコと共に、冬の関川の河口のところで見られる代表的な鳥です。そのほかの種類は、ユリカモメやウミネコの集団の中に、ポツポツと見られます。集団で、防波堤に止まって休んでいるのがよく見られます。

種名 オツネトンボ



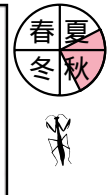
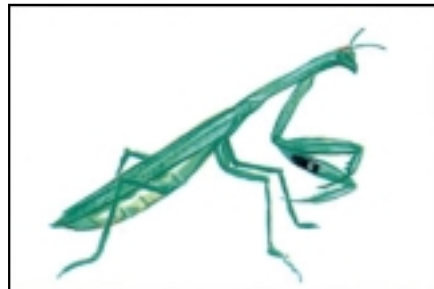
北海道から九州、なかでも東北地方でたくさん見られます。水草の茂っている池にすんでいます。7月頃から、成虫がよく見られるようになります。トンボにはめずらしく、成虫で冬を越し、次の春に産卵します。春に、今池橋のまわりで、冬を越した成虫が見られました。しかし、関川の河川敷には、オツネトンボにとって、すみやすいところが少ないため、あまり見られません。

種名 ヒバリ



スズメよりやや大きく、畑や草原、河原などの開けたところにすんでいて、地上を歩きながら餌を採ります。ピーチュク、ピーチュクチュク、チーチーチー、ビルビルと、複雑に長く鳴きます。関川の全地域で見られ、河口のところをのぞいて、数も多く、なかでも、堤防や地面の見える丈の低い草地は、巣を作る場所でもあるので、よく見られます。

種名 コカマキリ



山形県、宮城県から南の本州～四国、九州に分布しています。河川敷や畑、住宅地などで見られます。成虫は、夏から秋にかけて見られ、おもに、地上を歩きまわります。上越大橋や今池橋のまわりの草地に、たくさん見られます。